

2015年秋の大会
標準委員会セッション2
(原子力安全検討会・分科会セッション)
原子力安全確保のための深層防護の具体的適用の考え方

2015年9月10日(木)14:40～16:10 K会場 静岡大学 静岡キャンパス

座長： 法政大学 宮野 廣

(1) 深層防護実装の考え方

東京大学 山口 彰

(2) 深層防護実装における課題と解決の方向性(設計)

日立GE 今野 隆博

(3) 深層防護実装における課題と解決の方向性(運用管理)

関西電力 成宮 祥介

(4) 深層防護実装の有効性評価

名古屋大学) 山本 章夫

(5) 総合討論

法政大学 宮野 廣

論点

1. 実装としての、設計、運用、防災の意味
設計は、設備設計（設計基準との関係）
運用は、AM策（既存設備の活用と可搬設備）
防災は、避難（待機と逃避）
2. 防止と緩和の独立性とは（各層間の独立性との関係）
3. フォアキャストとバックキャスト
4. 信頼性と不確定性
5. 深層防護とリスク評価
6. 深層防護は福島第一事故を防げたか

まとめ

1. 深層防護は、安全確保に有効である
2. そのためには、各ステークステークホルダーの果たす役割が重要である
3. 確定論的対応と確率論的対応、共に役割を果たすこと
設備を余裕を持ち造ること
すべての対応をリスクで有効性評価を行う
4. 安全目標、性能目標を明確にする
5. ハードの品質は、日頃の管理と多様性により確保される
6. ソフトの品質は、訓練、人材、安全文化により確保される